

令和7年度いるまドック 市民意見収集結果

入間市EV活用再生可能エネルギーマネジメント事業

テーマの概要（意見収集システムで公開した説明文から抜粋）

- 市役所では、平日日中に公用利用しているEV（電気自動車）を、夜間や休日に市民の皆様にも手軽にご利用いただけるシェアリングサービスを開始し、2年半が経とうとしています。
- この事業は、職員が公用車を利用する際のCO₂排出量を削減するとともに、市民の皆様にもEVを身近に感じていただき、ゼロカーボンシティを目指す入間市のフラッグシップ事業として様々な媒体でPRしてきました。
- また、導入したEVは、市が開催するイベントで電源として使用したり、災害等による停電時を想定した防災訓練を実施したりと、様々な用途で活用しています。
- 参加者の皆様には、どれだけの効果を得られたのかを知っていただき、EVを利用した感想や、EVシェアリングが市民意識に与える影響など、EVシェアリングの今後のあり方について語り合ってください。
- そのほか、脱炭素や地球温暖化対策についての意識啓発として、EVシェアリングをもっと活用してもらおうアイデアがあれば教えてください。
- 皆さんの発言は、EVシェアリング事業の今後に活用します。

テーマの概要（意見収集システムで公開した説明文から抜粋）

EVシェアリング 利用していますか？

事業名：EV活用再生可能エネルギーマネジメント事業

事業の背景

- ・市では、120台(令和4年度当時)の公用車を運用しているが、車両の老朽化(20年～30年が経過)が進み、燃費改善や修繕費が課題になっている。
- ・公用車は主に平日の日中に使用されており、休日や夜間はほとんど使用されていない。
- ・2050年のカーボンニュートラル実現に向け、あらゆる分野で温室効果ガス排出量の削減が求められている。

事業の概要

- ・公用車の一部をEVに入れ替える。
- ・民間事業者と連携し、平日夜間と土日祝日は、公用車として導入したEVを市民等に貸し出す「カーシェアリング」を実施する。
- ・市役所立体駐車場屋上等に太陽光発電システムを設置し、太陽光で発電した電力をEVに供給する。(余った電力は庁舎で使用する。)
- ・災害などの停電時にはEVから電力を供給することができる体制を整える。

事業の目的

- ・EVを通じた再生可能エネルギーの活用を行うとともに、EVのシェアリングを通じて、市民へ脱炭素や地球温暖化防止といった環境への意識啓発や、EVの普及促進を図る。
- ・災害等による停電時には非常用電源として活用することで、防災レジリエンスの強化を図る。



テーマの概要（意見収集システムで公開した説明文から抜粋）

EVシェアリング 利用していますか？

これまでの経緯

2022年度

2023年2月に、市役所にEVを10台導入
うち2台は公用車として利用しながら公用時間外に誰でも使えるシェアリングカーとして運用開始
市役所立体駐車場屋上に太陽光発電設備を整備

2023年度

健康福祉センターにEVを2台導入(2台をシェアリングカーとして運用)
健康福祉センター屋上に太陽光発電設備を整備

2024年度

藤沢地区センターにEVを1台導入(1台をシェアリングカーとして運用)

※健康福祉センター及び藤沢地区センターのEVは、土日祝日のみシェアリングを行っています。

事業費

・令和6年度決算額:1,259万2千円 ※シェアリングカー5台に要した経費です。

(主な経費の内訳)

- ・車両リース料(公用利用分):537万4千円(保険料、車両保守料等を含む)
- ・車両リース料(シェアリングに係る諸経費):183万2千円(シェアリングシステム・コールセンター等の利用料)
- ・工事費(藤沢地区センター充電設備)525万8千円

事業の特徴

お得な利用料金！

料金は15分220円から。
たくさん使っても、ガソリンの満タ
ん返しは不要です。



カンタンな利用方法！

利用はスマホ一つでOK！
スマートフォンアプリ『eemo』で、
予約・開錠・利用
・決済まで、一括
管理できます。



環境にやさしい！

EVの充電には太陽光パネルで
発電した電力を使用しています。



災害時も安心！

災害による停電時には、避難所
等で、EVの電力を利用できます。



テーマの概要（意見収集システムで公開した説明文から抜粋）

EVシェアリング 利用していますか？

利用実績

年度	対象車両	シェアリング 利用件数	EV利用によるCO ₂ 削減量 ※公用車としての利用を含む
2022年度	2台(2ヶ月の利用)	46件	1,344kg-CO ₂
2023年度	4台(うち2台は1ヶ月の利用)	152件	9,641kg-CO ₂
2024年度	5台(うち1台は4ヶ月の利用)	202件	10,455kg-CO ₂

※1トンのCO₂は、スギの木約71本が1年間に吸収できる量に相当します。



こんなことにも使っています

市のイベントでの活用

市が実施する屋外のイベントで、電源として活用しています。

- ・入間万燈まつり
- ・入間市駅伝競走大会
- ・集まれ！入間市ラジオ体操会
など



市の防災訓練での活用

現在、市では市民等とのシェアリングに活用していないものを含めると、合計15台のEVが配置されています。災害等により長期間の停電が発生した時には、避難所等にEVを派遣し、照明や通信機器の電源として活用することを想定し、そのための訓練を実施しています。



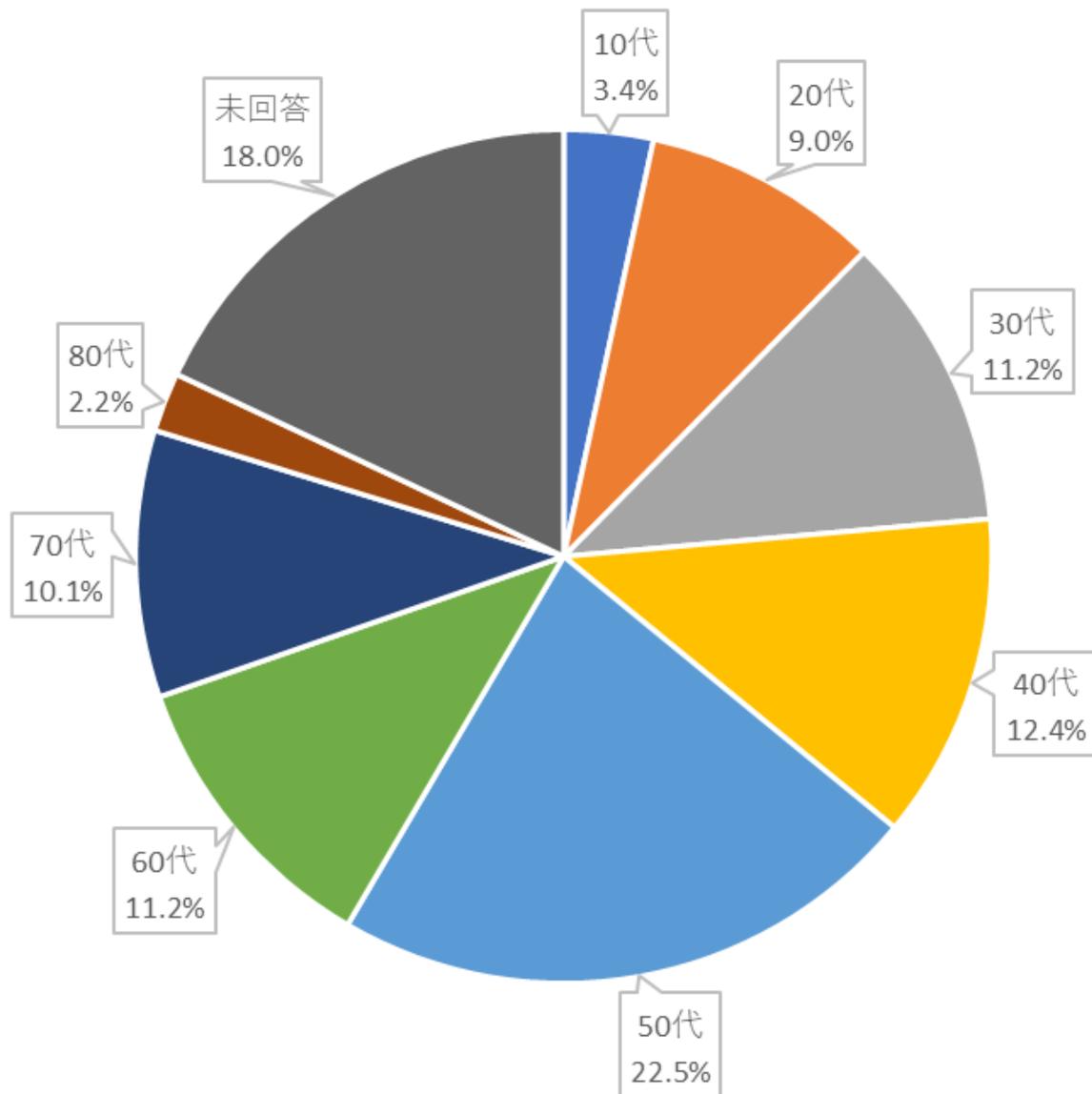
保健所や医療機関等と連携した訓練

狭山保健所、市福祉部門、その他、難病在宅療養者の支援に関わる関係機関と連携し、人工呼吸器を装着している在宅療養児（医療的ケア児）の、災害時避難訓練を実施しました。

災害が起きた時を想定し、電源確保の方法などを確認しました。



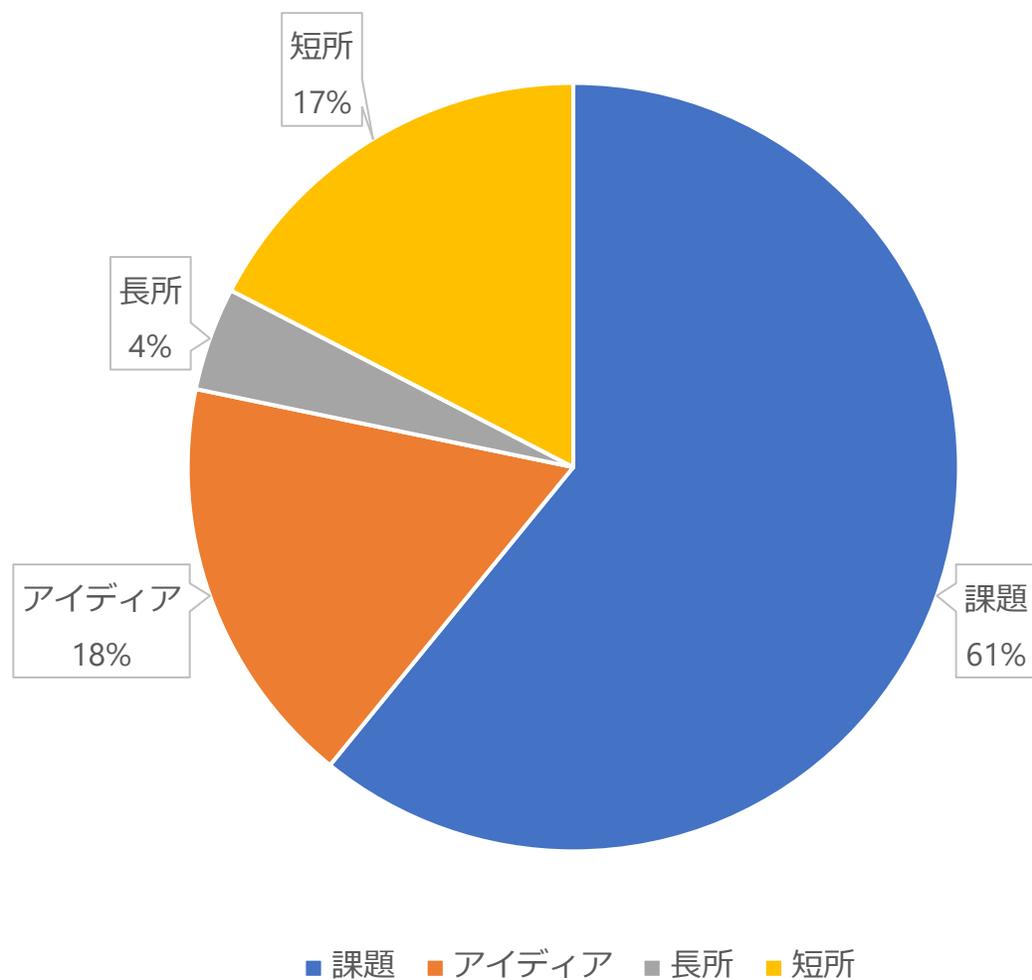
参加者数と年代



年代	参加者数 (人)	割合
10代	3	3.4%
20代	8	9.0%
30代	10	11.2%
40代	11	12.4%
50代	20	22.5%
60代	10	11.2%
70代	9	10.1%
80代	2	2.2%
未回答	16	18.0%
計	89	

発言の内訳

投稿内容



分類	人数
発言者	11人
発言	22件

投稿内容	投稿数
課題	14
アイデア	4
長所	1
短所	4

キーワードクラウド、頻出単語ランキング



順位	単語	回数
1	ev	26
2	利用	23
3	シェアリング	22
3	市民	22
5	e v	19
5	事業	19
7	活用	16
8	意見	13
9	入間	11
10	場所	10

グループ핑分析

- 投稿内容をグループに分類 ※複数のグループに属する意見あり
1. 設置場所 (8件)
 2. 活用アイデア (5件)
 3. 災害時利用 (4件)
 4. 事業への疑義 (3件)

分類別の代表的な意見 (発言内容は意味が変わらない程度に修正)

1. 設置場所

- 家や職場等から歩いて行ける場所がないと使いたくても使いづらいです。
- 使った人って、半径どのくらいの所から利用しに来たんでしょうね。試していくとかの感覚だったのかな？そもそも、わざわざ離れている所まで行って利用するメリットって何があるんだろうか？近くなれば普段は歩いてるけど、チョット買い物にとかは考えられるけどな...
- 今後、地区センター（9ヶ所）に設置する予定と思われませんが、使用状況がよくなるとは思いません。地区センターの職員は本庁に行く時には使うので、市民が使う時間は限られます。各地区センターの地域では、自家用車の所有が殆んどですし、安全運転の為には慣れた自家用車を使うのではないのでしょうか？

分類別の代表的な意見 (発言内容は意味が変わらない程度に修正)

2. 活用アイデア

- EVシェアリングをもっと知ってもらい、たくさん使ってもらうために、イベントで使ってみたり、観光する時の車として使ってみたりしてもらいたいのではないかと思います。また、有名な企業と一緒にイベントを行ってみるのもいいと思います。
- ニーズ調査の為に一定時間までの無料利用とかも一案だと思う。
- 市民の高齢化により、今後免許返上する方が増えていくと思います。EVシェアの乗合タクシーなど併用はできないものでしょうか？タクシー券がなくなり困っている高齢者の声をよく聞きます。
- 地域の自治会や青パトなど車の維持費がかかっていると思います。青パトとして活用したり、荷物を積める車種（軽ワゴン）だと活用の幅が広がるのではないかと思います。

分類別の代表的な意見 (発言内容は意味が変わらない程度に修正)

3. 災害時利用

- 防災レジリエンスの強化も目的の一つであれば、協定などによりスーパーなどの駐車場を多く抱える企業の協力を得て施設を増やすということができると良いと思います。
- 災害があった場合の電源としての利用は副次的なものだと思うので、災害時の備えが目的なのであれば、ポータブル電源とかの方が維持も楽そうだしお金もかからないのかと思いました。

分類別の代表的な意見 (発言内容は意味が変わらない程度に修正)

4. 事業への疑義

- EVシェアリングが活用されないのは市民が無関心だから——という見立てに対して、「そもそもなぜこの事業が始まり、どう評価され、どのように市民に伝えられてきたのか」を問わずに「活用のための議論をしよう」とするのは、原因と対策の論点をすり替えたアプローチです。
- 市の意見にEV利用における脱炭素化とかEVカー購入への意識とかがあるけど、チョットお粗末な話かなと思う。官民協働の事業としては、一定の評価はできるけど脱炭素化って、EVカーでは出来ない話ですよ。そこプッシュしたいなら、水素カーとかの方がまだ良かったね。もっとも水素カーも脱炭素化にはほど遠いけどね。どうも、今の状況は、EVカーシェアの先行きには暗雲が出てきた感じですね。
- 課題は、設置台数の少なさよりも仮想ユーザの想定が適切なのか?想定ユーザの利用目的として、適切に考えられているのか?

意見のまとめ

- 設置場所が悪く利用者が限定されていると考えられる。また、利用者の想定が甘いのではないか。
- 利用促進のために、イベントに活用する、料金を安くするなどの対応をしてはどうか。
- 災害対応の目的のためにはもっと設置場所を増やすか、EV以外の電源確保をした方が良い。
- 脱炭素目的としては、EVよりも水素カーなどもっと有用なものがあったのではないか。